

審議会等の会議の記録

会議の名称	令和5年度第2回子ども・子育て会議
開催日時	令和5年12月12日(火) 午後2時00分から午後3時00分
開催場所	市役所東館3階 災害対策室
出席者氏名	【委員】 古作委員、江原委員、鈴木委員、丸橋委員、久保田委員、吉田委員、柳澤委員、上田委員、小暮委員、菊入委員、佐野委員、中西委員、森村委員、黒澤委員、荻原委員、田中委員、諏訪委員、西川委員、高橋委員 【関係者】 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所小林支社長、同竹澤主任研究員 【市職員出席者】 田部井福祉こども部長、大森福祉こども部副部長、森村子育て支援課長、高橋係長、高橋主査、松原主任
傍聴人数	0人(公開)
会議の議題	第3期子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について
会議資料の内容	資料1 子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の概要について 資料2 子ども・子育て会議委員からの意見報告書まとめ 別紙 ニーズ調査項目案 その他 就学前調査票(イメージ) 小学生調査票(イメージ)

会議における
議事の経過
及び発言の要旨

会議の経過は以下のとおり

《 1. 開会 》

(事務局) 開会及び会議の出席者の報告

《 2. 議 事 》

第3期子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について

(事務局) 資料1～資料2及び別紙、その他の資料の説明

(委員)

問1の選択肢では「父親・母親」、問2の選択肢では「配偶者/パートナーがいる・いない」となっているが、問10以降で「母親」「父親」ごとに回答するようになっている。

問10以降の設問について、「母親」「父親」ではなく、「記入者」「配偶者/パートナー」というような配慮をしたほうが良いのではないか。

(株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所)

本調査については、設問の内容や集計・回答のしやすさを踏まえると「父親」「母親」としたほうが回答者側に理解されやすいことから、現状のままのほうが良いと思われる。

(委員)

インターネットで回答するときに、「必須」などの表示はあるのか。

(株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所)

設定次第ではあるが、未回答の項目があっても回答を送信することも可能。また、前問で1と答えた方のみ回答してくださいなどの、回答者を限定した設問などは、該当する時のみ表示させるという設定等も可能。

そういったインターネット回答の詳細な設定については、今後事務局と調整させていただく。

(会長)

紙は空欄で出せてしまうが、インターネットだと回答しないと先に進めない設定の調査もある。インターネット回答の設問を必須とさせるのかどうかも含め事務局に任せるということでよいか。

(委員)

【就学前】問28、【小学生】問19について、選択肢1と2の違いが分からない。何か意図があるのか。

(事務局)

1は親子で集まれる施設やイベントを、2は子ども自身が楽しめる機会と場所として設定したが、ご意見のとおり違いがわかりづらいため、1つの選択肢に集約することも含め修正する。

(委員)

共通設問の問11について、選択肢2「子育てしながら働くことについて職場の人の理解・協力があること」とあるが、企業や社会で子育てに対する理解・協力を得るという意味では、「職場の人」ではなく「職場」としたほうがいいのではないかと。

(事務局)

ご意見のとおり修正する

(委員)

【就学前】問26と27、【小学生】問17と18について、なぜそう思うのか理由を聞いたほうがいいのではないかと。

問32(問23)に自由記入欄があるが、その自由記入欄は調査票全体を通してのことになってしまい、問26と27(17と18)についての具体的な理由は分からないのではないかと。

ここで具体的な理由を聞くことで行政も対応しやすいのではないかと。

(事務局)

各問のあとにその理由を聞く設問を設けなかった理由として、設問が増えるため、回答者側の負担が増えてしまうこと、また最後に自由記入欄を設けることで、問26と27(問17と18)に限らず、様々なことに関して意見を集約することができるかと考えたためである。

しかし、ご意見のとおり理由を聞く設問を設けることも可能である。

(会長)

問26などの選択肢を選んだ理由をちゃんと聞くことができるという意味では、書く人書かない人がいるかもしれないが、これらの設問の次に理由を聞く設問を設けたほうが良いと思う。

(事務局)

ご意見のとおり、問26と27(問17と18)の次に理由を聞く設問を設けることとする。また、最後の自由記入欄については、それ以外の意見等を集約する設問として取り扱う。

(委員)

【就学前】問29、【小学生】問20について、㊸に特別保育とあるが、放課後等デイサービスや児童発達支援はここに含まれているのか。保育業界としては、特別保育の枠にこれらの内容が含まれている。

(事務局)

⑬特別保育の説明を修正するか、追加で枠を設けるか再度検討する。

(委員)

回答の締切について、インターネット回答も2月2日でよいか。調査票の表紙には「投函の締め切り」となっているので、分かりやすくしたほうがいいのではないか。

(事務局)

表現について、再度検討する。

(会長)

【就学前】問20、【小学生】問14について、ショートステイとあるが、この制度自体を知らない人がいるのではないか。

様々なサービスがあっても、知らないと利用できないため、知っているかどうかを聞いたほうがいいのではないか。

(委員)

児童養護施設等で実施されているサービスとなると、なかなか認知されていないのではないかと思う。

「知っている」「知らない」を聞くことには意味があると思う。

(事務局)

「サービスを知らない」というような選択肢を追加する。

(委員)

先ほど質問のあった【就学前】問29、【小学生】問20について、放課後デイサービスや児童発達支援は、福祉サービスに該当するため、「福祉サービスに対する支援」などとして回答の枠を1つ増やすのはどうか。

(事務局)

いただいた意見を踏まえ、担当課等にも確認したうえで、枠を1つ増やすか、説明文を修正するか検討する。

(委員)

調査票の表紙について、表紙の上部のところは「調査票」と入れないで「就学前」「小学生」としたほうが分かりやすいのではないか。

(事務局)

ご意見を踏まえ修正する。

(委員)

調査票の表紙の文章の5行目に「ご意見を聞かせていただくため」とあるが、「聞かせていただき、改善に役立ってます」などのこの調査の趣旨を述べたほうがいいのではないか

(事務局)

ご意見を踏まえ修正する。

《 4. その他 》

次回の会議は3月の開催を予定している。

なお、正式な開催通知は後日送付する。

また、今回の議題とは直接の関係はないが、こども家庭庁が推進する活動の1つに、「こどもまんなか応援サポーター」というものがある。

子供たちが健やかに幸せに成長できる社会を実現するというこどもまんなか宣言の趣旨に共感、賛同し、その取組を応援し自らも取り組む個人、地方自治体、企業をこどもまんなか応援サポーターと位置付けるものである。

本市においても、様々な活動を子供中心に据え、社会全体で子供たちを支える仕組みづくりは重要であると考えており、「こどもまんなか応援サポーター宣言」をすることは市の姿勢を示す有効な手段の1つと考えられる。

今後、「こどもまんなか応援サポーター宣言」をすることを検討していくにあたり、子ども・子育て会議内においてご意見を頂戴する可能性もあるため、予めご承知おきいただきたい。

《 5. 閉会 》